(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2007-289598
(P2007-289598A)
(43)公開日　平成19年11月8日(2007.11.8)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A47B 81/04	(2006.01)	A47B 81/04	Z	

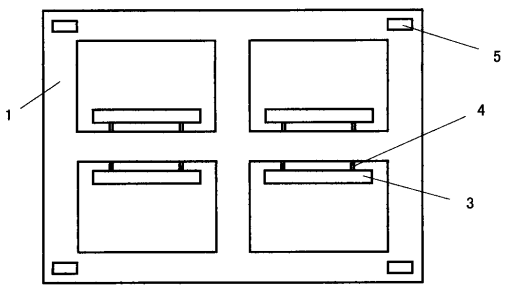
審査請求 未請求　請求項の数 3　書面　（全 4 頁）

(21)出願番号　特願2006-143343 (P2006-143343)
(22)出願日　平成18年4月24日 (2006.4.24)

(71)出願人　390007858
サナダ精工株式会社
大阪府南河内郡千早赤阪村大字小吹３番地１
(72)発明者　眞田　達雄
大阪府南河内郡千早赤阪村大字小吹３番地１　サナダ精工株式会社内

(54)【発明の名称】食器収納器具

(57)【要約】
【課題】平板に脚を備え、積み重ねての保管が可能な既存の類似品では、物流時に脚部が邪魔で、容積が大きくなり、物流コストが上がる原因となっていた。
【解決手段】食器を乗せる為のトレイ部分と、脚部分を別部品とし、脚部品を後工程でトレイ部分に嵌め込む構成とする。なおかつ、トレイを樹脂成形する際、その隙間に脚部品を配置し、一体成形する事で、コストダウンを図る。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
略円形、略長方形、略台形、略半円形、略楕円形または、これらに類する形状のトレイ部と、３本以上６本以下の脚部を装置する事で、種類の異なる皿等の食器を、重ねて収納可能に構成した食器収納器具において、下記のいずれかの特徴、構造を有する食器収納器具。
１，トレイ部分は、所定の厚さを有する樹脂成形品であり、脚部は、トレイの下面側又は側面近傍に設けられた、凹部または貫通穴に差し込む事で、トレイ本体と一体化する。
２，トレイ部表面には、複数の貫通穴または、スリットを設けた。
３，トレイ部は、格子形状または、これに類する形状に構成した。
４，トレイ部の表面は、細かい凹凸を設けるまたは、波板状に形成した。
５，トレイ部の表面または裏面に、補強用のリブを設けた。
６，トレイ部表面の外縁周囲に、高さ１ｍｍから２０ｍｍのリブを設けた。
７，トレイ部に、貫通穴やスリットを設けた場合や、格子形状に成形した場合、その格子部等の断面形状は、Ｉ、Ｈ、Ｙ、Ｄ、Ｘ、Ｌ、Ｚ、Ｅ、または、これらに類する形状とした。
【請求項２】
脚部は、食器を収納する際の所定の位置とは異なる位置でトレイ部と一体成形され、食器収納器具として使用する場合は、脚部をトレイ部から切り離せる様に構成し、なおかつ、下記のいずれかの特徴を有する請求項１に記載の食器収納器具。
１，トレイ部と脚部の連結部分は、樹脂成形時に樹脂の流動性を確保しつつ、使用時には容易に切り離せる機能を確保する為、最小断面積を０．５～１０平方ｍｍとした。
２，トレイ部と脚部の連結部は、脚部１本につき、２箇所以上１０箇所以下とした。
３，脚部の断面形状は、Ｉ、Ｈ、Ｙ、Ｄ、Ｘ、Ｌ、Ｚ、Ｅ、または、これらに類する形状とした。
４，樹脂成形時の脚部の配置場所は、格子状やスリット状に成形されたトレイ部の隙間または、トレイの外縁の周囲とした。
５，脚部は、長さや形状が異なる物を数種類備え、各種類共、必要数量を一体成形した。すなわち脚部は、必要数量の整数倍の数を備えた。
【請求項３】
脚部をトレイ部に差し込む事で一体化する部分は、下記のいずれかの構造である事を特徴とする、請求項１または２に記載の食器収納器具。
１，トレイ部に設けた凹部は、その壁の一部をトレイ部外縁周囲に設けたリブと共用とした。すなわち、リブの一部に、筒形状を埋め込み、一体化する構造とした。
２，トレイ部に設けた凹部は、その壁の一部をトレイ部の格子部分等と共用とした。すなわち、格子やスリットの一部に、筒形状を埋め込み、一体化する構造とした。
３，トレイ部の下面に凹部を設け、同じ位置の上面にも凹部を設ける事で、複数のトレイを積み上げ可能に構成した。
４，トレイ部に設けた凹部の深さは、リブも含めたトレイ部の厚さと比べて同等以下とした。
５，凹部または貫通穴の形状は、長方形、円形、長円形、台形、楕円形、平行四辺形または、これらに類する形状とした。
６，脚部の端部は、脚部の主要部分よりも細く形成し、トレイ部の凹部が貫通穴の場合でも装置可能に構成した。
７，上記６の構成において、脚部の先端部分にトレイとの連結部分を設け、トレイ部側は貫通穴とした。
８，脚部の端部側面にトレイ部との連結部分を設け、脚部をトレイ部の凹部または貫通孔に挿入した時には、切り離した連結部分の切り口が隠れる様に構成した。
９，上記８の構成において、凹部または貫通孔の縦壁の一部に、切り口の逃げを設けた。具体的には、周囲の縦壁の内、一定の範囲だけを、数ｍｍ外側に広げる等の構成を指す

。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、主として皿などの食器を重ねて保管する為の器具に関する。
【背景技術】
【０００２】
食器棚などに食器を保管する場合、大量の食器を積み上げる事は、転倒による破損の危険がある。そこで、一定量の食器を乗せた状態で、安全確実に積み重ねが可能で、なおかつ、安価な商品が求められているが、該当する商品が無かった。
【発明の開示】

【発明が解決しようとしている課題】
【０００３】
平板に脚を備え、積み重ねての保管が可能な既存の類似品では、物流時に脚部が邪魔で、容積が大きくなり、物流コストが上がる原因となっていた。
【課題を解決する為の手段】
【０００４】
食器を乗せる為のトレイ部分と、脚部分を別部品とし、脚部品を後工程でトレイ部分に嵌め込む構成とする。なおかつ、トレイを樹脂成形する際、その隙間に脚部品を配置し、一体成形する事で、コストダウンを図る。
【発明の効果】
【０００５】
本発明品の構成によれば、種類が異なる食器を重ねて収納可能で、食器棚内部の空間を有効活用する事ができる。また、製造及び物流コストを下げる事で、市販価格を低く設定する事が可能となる。
【発明を実施するための最良の形態】
【０００６】
食器等を乗せるトレイ部分を格子状とし、その隙間に、脚部分を装置した状態で、樹脂により一体成形する。トレイ部分と脚部分の連結部は、他の部分よりも極端に断面積を小さくする事で、使用時に、簡単に切り離せる構造とする。
トレイには、所定の数の凹部または貫通穴を装置し、切り離した脚部分を差し込み、固定可能な構造とする。
【実施例】
【０００７】
図１は、本発明品の斜視図である。食器戸棚などの内部に置き、食器などを乗せて使用する状態を表し、トレイ部１に、脚部２を４本装置している。
【０００８】
図２は、本発明品を樹脂にて一体成形した場合の、成形状態を表す平面図である。トレイ部１は、格子状に成形され、その隙間に、脚部３を配置した状態で成形する。トレイ部１と、脚部３の連結部分４は、トレイ部の格子状部分や脚部の断面積と比べて、極端に断面積が小さい為、成形後に脚部３を容易に切り離す事ができる。尚、脚部３を切り離し、トレイ部１の表面に設けた凹部５に差し込むと、図１に記載の脚部２となる。
凹部５の深さは、トレイ１の厚さの半分以下であり、トレイ１の表面と裏面と両方に装置する事により、複数の本発明品を上下に重ねて使用する事が可能で、食器戸棚の内部空間を有効利用する事ができる。
【０００９】
図３は、請求項３の、７番目に記載された本発明品の実施例を表す。脚部６は、その両端を連結部分７を介してトレイ部１と一体成形されている。この構成では、切り離した後、脚部６の両端に切り口のバリが残ってしまい、凹部に差し込んだ場合、底付きしてしまう

。そこで、この構成の場合は、トレイ１の差し込み部分を貫通穴８とし、脚部６の両端は、穴に合わせて細くする事で、図２の実施例と同様の機能を得る。

【００１０】

以上の様に構成する事により、種類が異なる食器を重ねて収納可能で、食器棚内部の空間を有効活用する事ができる。また、製造及び物流コストを下げる事で、市販価格を低く設定する事が可能となる。

【産業上の利用可能性】

【００１１】

本発明によれば、物流コストを下げ、安価で高機能の食器収納器具を得る事ができる。

【図面の簡単な説明】

【００１２】

【図１】本発明品の、使用状態の斜視図を表す。

【図２】本発明品の、成形状態を表す。

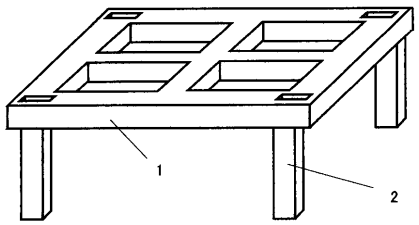
【図３】本発明品の、成形状態で、脚部の両端を細くし、先端に連結部を設けた実施例を表す。

【符号の説明】

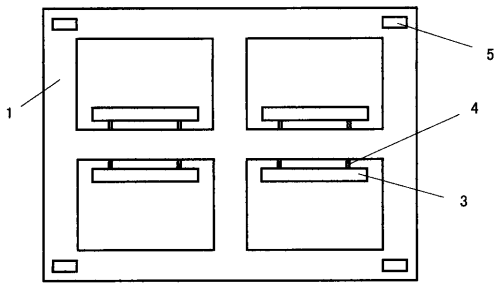
【００１３】

１、トレイ部
２、使用状態の、脚部
３、成形状態の、脚部
４、連結部分
５、凹部
６、成形状態の脚部で、両端を細くした形状
７、連結部分
８、貫通穴

【図１】



【図２】



【図３】

